

善隣

No.530 通巻797

2022年（令和4年）11月1日発行（毎月1日発行）

2022 11



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣

目 次

2022年11月号

国民の約6割が反対した安倍元首相の国葬 決定的だった旧統一教会とのつながり	岩垂 弘	2
いま、この国に必要なのは、ブルネル・スピリット ——イザムバード・キングダム・ブルネルから学ぶこと	佐藤建吉	8
アジア蔑視論と和魂漢才 ——日本文化の2つの潮流	矢吹 晋	17
陶々俳壇	馬場由紀子選	26
中国ウォッチング	編・訳 上松玲子	28
会員彼是		
満洲国立建国大学と戦後、日中国交正常化と 善隣国際交流事業	村田嘉明	30
協会通信・会員だより・同好会だより		32
2022年11月の行事予定		33

— 善 隣 第530号 通巻797号 —

2022（令和4）年11月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会
TEL 03（3573）3051
FAX 03（3573）1783

発行人 矢野一彌
編 集 原田克子
編集協力 朝 浩之、校 正 菅沼玲子
印刷所 (有)ゆにおんプレス
定価 一部400円 年額4,800円
振替 00120-0-145956
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345
©禁無断転載

みんなの写真館 32
(姜晋如、新宅久夫)

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

国民の約6割が反対した安倍元首相の国葬

決定的だった旧統一教会とのつながり

ジャーナリスト 岩垂 弘

選挙演説中に銃撃されて死亡した安倍晋三元首相の国葬が9月27日に東京・九段の日本武道館で行われた。国民の過半数が国葬に反対する中で挙行された異例の国葬だった。岸田文雄内閣が日ごとに高まる「国葬反対」の動きを無視して強行した国葬だっただけに、今回の国葬問題は今後も尾を引き、政界をはじめさまざまな分野に影響をもたらしそうだ。

本稿では、なぜこんなにも「国葬反対」の世論が沸騰したのかを振り返ってみてみたい。

奈良市の近鉄大和西大寺駅前で遊説中の安倍元首相が銃撃されて死亡した

のは7月8日午前11時30分のことである。2日後の10日に予定されていた参院選挙に向けて自民党候補を応援するための選挙演説中での出来事だった。犯人の元海上自衛官・山上徹也（41歳）は殺人未遂容疑で現場で逮捕された。

それは政治的テロではなかった

なにしろ、人の往来が激しい白昼の街頭で、しかも要人警護の警察官が警備に当たる中で起きた元首相暗殺事件だっただけに、このニュースは国の内外に激的な衝撃を与えた。被害者が憲政史上最長の8年8か月も総理大臣を務めた政治家で、しかも参院選直前の

事件だったから、誰しも「これは政治的な狙いを伴ったテロに違いない」と思ったのは至極当然であった。

岸田首相は直ちに「卑劣な蛮行、断じて許せるものではなく、最も強い言葉で非難申し上げる」との談話を発表。7月9日付の朝日新聞は「民主主義の破壊許さぬ」と題する社説を掲げ、「銃弾が打ち碎いたのは民主主義の根幹である。全身の怒りをもって、この凶行を非難する」と論じた。10日付の毎日新聞社説も「暴力によって命を奪い、言論を封じる凶行は断じて許されない。民主主義の基盤を揺るがすものだ」と書いた。

こうした首相談話やメディアの論調

も影響したのか、事件直後から、事件現場には連日、安倍元首相の死を悼む多くの市民が訪れ、花束を供えた。

12日には、安倍元首相の葬儀が東京・港区の増上寺で営まれた。翌13日付の朝日新聞は「岸田文雄首相ら：約1千人が参列した。敷地の外にも多くの人たちが訪れた」と報じ、同日付の毎日新聞は、葬儀会場近くにいた大学生が「人の多さに驚いた。安倍さんってこんなに人気があったんだ」とつぶやき、神奈川からやってきた女性（パート従業員）が「日本に大きな功績を残された方なので、他人事じゃないという思いで来た。ありがとうございますと伝えたい」と語った、と伝えていた。

7月10日に行われた参院選は、自民党が圧勝。銃撃に倒れた安倍元首相への同情票が同党に投じられたからではないか、という分析もあった。

ところが、この事件を「政治的なテロ」とする見方は、急速に下火となる。なぜなら、山上容疑者が警察の取り調べに供述した内容が、人びとが予想し

ていたものとは全く異なっていたからである。

7月9日付の朝日新聞夕刊は、山上容疑者の供述を、こう報じた。

「捜査関係者によると、山上容疑者は、特定の宗教団体の名称を挙げ、『過去に家族が入信し、金を納めて生活が苦しくなった』と説明していることもわかった。『団体トップを狙おうとしたが難しく、安倍氏は（その団体と）つながりがあると思った。（安倍氏を）殺そうと思った』と話しており、奈良県警は、宗教団体への恨みが安倍氏への一方的な殺意につながったとみている」。

「過去に入信した家族」とは、山上容疑者の母だった。続けて、山上容疑者は犯行の動機について「（安倍氏の）政治的信条に対する恨みではない」と供述した。

こうした記事を読んで、なんとも不思議な記事だな、と思った。山上容疑者が「特定の宗教団体」の名称を挙げたのに、その名称が書かれていなかったからである。警察が何らかの事情で

名称を発表しなかったのか、それとも、報道側が何かに付度してあえて書かなかったのか。

この点の解明はひとまずおくとして、とにかく、ここで注目しておきたいのは、山上容疑者の供述によって事件の本質が明らかになったということである。つまり、事件は政治的なテロではなく、安倍元首相への山上容疑者の個人的な恨みから生じたものだったのだ。新聞、テレビなどのメディアがこぞって「政治的テロ」説に傾いていただけに、拍子抜けした人も少なくなかったに違いない。

衝撃的だった旧統一教会の登場

だが、この直後、国民は「第2の衝撃」に遭遇する。メディアが、「特定の宗教団体」とは宗教法人「世界平和統一家庭連合」（旧・世界基督教統一神霊協会Ⅱ統一教会）であると報じたからだ。7月11日のことである。そればかりでない。この日、同連合の日本教会の田中富広会長が都内で会見し、

山上容疑者の母親が会員であると認め
たからである。

私も驚いた。旧統一教会は、1980年代に日本で「霊感商法」を行い、社会問題化した宗教団体だったからである。霊感商法とは、警視庁によれば「単なる壺や印鑑、置物などに、あたかも超自然的な霊力があるように、言葉たくみに思わせて、不当に高い値段で売り込む商法」のことだ。旧統一教会はまた、信者同士を組み合わせる大規模な集団結婚式を行い、日本からの参加もあって世間の耳目を集めた。私自身、旧統一教会による霊感商法や集団結婚式のことは鮮やかに記憶している。

教会は1954年に韓国ソウルで創立された。創始者は文鮮明氏。世界各地に拠点を持つが、日本に拠点が設立されたのは59年で、64年に宗教法人として認証された。その後、名称を「世界平和統一家庭連合」と変え、日本でも2015年からその名乗るようになった。文鮮明氏死去後は、妻の韓鶴子さんが同連合の総裁を務める。

問題をエスカレートさせた 安倍元首相国葬の閣議決定

ともあれ、国民に衝撃を与えた安倍元首相銃撃問題も、この段階ですめば、やがて時間の経過とともに沈静化していったに違いない。

だが、7月14日に岸田首相が安倍元首相の国葬を行うと表明し、同22日に「国葬は9月27日、日本武道館で行う」と閣議決定した。戦前の国葬の法的根拠となっていた「国葬令」は敗戦直後に廃止されていたので、閣議は内閣府設置法の規定にその法的根拠を求めた。ところが、閣議決定の直後から、国民の間で「国葬反対」の声が噴出し始めた。

国葬反対理由は「憲法違反」「民主主義の破壊者」「旧統一教会とのつながり」の3つ

国葬反対の動きは、最初は反対・抗議声明の表明、集会・デモといったも

のだったが、いずれも散発的だった。でも、それらが日を追うごとに規模を拡大してゆく。

最初に世間の関心を集めたのは、8月16日、東京の新宿駅西口前の通路で開かれた「安倍『国葬』やめろ！緊急市民集会」だった。飯島滋明（憲法学者）、落合恵子（作家）、鎌田慧（ルポライター）、木村三浩（一水会代表）、斎藤貴男（ジャーナリスト）、佐高信（評論家）、澤地久枝（作家）、永田浩三（武蔵大学教授）、前川喜平（元文部科学事務次官・現代教育行政研究会代表）の9氏の呼びかけで急きょ開かれたもので、約850人が通路を埋めた。労組による組織動員でなく、個人で参加してきた人や通りがかりの人びとだった。

呼びかけ人が次々と登壇して発言したが、それを聴いていて、国葬反対の理由は、3点にしばられるなと思った。

第1点は、今度の国葬には法的根拠がなく、憲法違反だという指摘。

飯島氏は「安倍元首相の国葬は憲法

14条の『法の下での平等』からも正当化できない。日本国憲法では、人の価値は平等。安倍元首相の価値は高いが一般市民の価値は高くない。こうした主張は日本国憲法では認められない。国葬だから全国国民は黙とうせよ、弔意を示せ。これが民主主義だろうか。全体主義だ」と述べた。

第2点は、「安倍元首相は民主主義の破壊者だから」という主張。

落合さんは「安倍元首相には生きていてほしかった。なぜなら、これまでの政治の責任を果たしてもらいたかったから。彼が銃撃されて亡くなった時、メディアは、『民主主義が破壊された』と報道したが、そうした見方はおかしいと思った。なぜって、わが国の民主主義を破壊したのは彼なんだから。教育基本法を改正し、共謀罪法をつくり、安保法制を成立させ、その上、モリ・カケ・サクラといった疑惑を遺したんだから」と発言。

前川氏は「安倍さんに国葬に値する業績があったらうか。安倍さんが遺したものでいいことは一つも思い浮かば

ない。安保法制を強行採決し、共謀罪法、秘密保護法をつくって権力が国民を思うようにあやつれるようにした。責任を追及されても何も答えず、うそばかり言っていた。安倍さんは民主主義の破壊者だった。それに、外交では北方領土は返ってこなかったし、

(北朝鮮による)拉致被害者も帰ってこなかった。

経済ではアベノミクスも失敗だった。こんな人をなぜ国葬で悼まなければならぬのか」と述べた。

鎌田氏も「安倍元首相は安保法制を成立させて日本の集団的自衛権行使に道を開いたほか、米国から武器を爆買いし、米国の核共有論まで唱えた。いわば、元首相は日本を軍事強化の方向にもっていった。その一方で、ロシアのプーチン大統領と二十数回会談しながら、北方領土は返ってこなかっ

た。こんな人の国葬は必要ない」と話した。

第3点は、安倍元首相が旧統一教会とつながりを持っていたこと。

そのことを指摘したのは落合さんで、「岸田内閣は、国葬をすることで、旧統一教会と政治家のつながりにフタを



「国葬反対」を掲げて集まった人たちは9月19日、東京・代々木公園での集会

しようとしているのではないか」と発言した。

旧統一協会とのつながりへの 反発が前面に

都内での「国葬反対」を掲げた集会はその後も続いたが、回を重ねる度に、参加者が増していった。例えば、8月31日、国会議事堂正門前で行われた「安倍元首相『国葬』反対！8・31国会前大行動」には約4000人（主催者発表）が集まった。主催したのは、市民団体、労働団体など79団体でつくられた「安倍元首相の『国葬』に反対する実行委員会」。

9月19日には、代々木公園で「さようなら戦争 さようなら原発9・19大集会」が、「さようなら原発・1000万人市民アクション実行委員会」と「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の共催で開かれた。前者は「脱原発」を、後者は「反戦・反改憲」を掲げる団体だが、この日は「国葬反対」もメイン・スローガンに



日比谷公園から東京駅に向けて歩き出したデモ行進＝9月27日、日比谷公園中幸門で。

加えた集会となり、参加者は1万3000人（主催者発表）にのぼった。

これらの集会を見てきて印象的だったのは、どの集会でも、国葬に法的な根拠がないことや、安倍政権の政治姿勢や政策への批判が語られたが、それにも増して、安倍元首相をはじめとする自民党議員と旧統一教会とのつなが

りを糾弾する声が、集会が回を増すごとに高まっていったことだった。旧統一教会問題が前面に押し出されてきた感じだった。

「安倍元首相『国葬』反対！8・31国会前大行動」では、「統一教会の『広告塔』安倍晋三国葬反対」と書かれたプラカードが登場した。掲げていたのは高齢の女性。「さようなら戦争 さようなら原発9・19大集会」では、会場近くの道路で、まるでエプロンのように首からプラカードを下げて歩く若い女性を見かけた。プラカードには「勝手に税金を使うな！統一教会 アベ国葬 モリ・カケ・サクラも忘れない！」と書かれていた。

メディアが暴いた教団と安倍氏の強いきずな

なぜ元首相や自民党への市民の不信や怒りが日ごとに増大していったのだろうか。それは、国葬の閣議決定以来、メディアの報道によって、旧統一教会の



9月27日に行われた国会正門前大行動で見かけたのぼり旗。掲げていたのは女性だった。

実像や、安倍元首相と一部自民党議員の同教会とのきずなの実態が次々と明らかになっていったからだと思は思う。とくに以下に挙げる点が、多くの国民に安倍元首相と自民党への不信・怒りを一層抱かせることになったようだ。

い」という教義に裏付けられている（7月15日配信の『デイリー電子版』）。▽旧統一教会の教義は「反共」で、安倍氏の祖父で首相を務めた岸信介氏は同教会の創始者・文鮮明氏と親交があった。その縁で安倍家は代々同教会と友好的な関係にあった。

▽安倍氏は2021年9月、旧統一教会の関連団体のイベントにビデオメッセージを送った。山上容疑者は、この映像を見て「（安倍氏）殺害を決意した」と供述している。

▽安倍氏は、参院選で自民党の候補を当選させるために、教団票（旧統一教会の信者の票）を差配していた。

国葬直前の、メディアによる国葬に関する世論調査結果はどうだったのか。

朝日新聞は「反対」56%、「賛成」38%。毎日新聞は「反対」62%、「賛成」27%。読売新聞は「評価しない」56%、「評価する」38%。共同通信は「反対」「どちらか」というと反対」計60・8%、「賛成」「ど

らかという賛成」計38・5%。NHKは「評価しない」57%、「評価する」32%。大まかに言って、国民の約6割が国葬に反対だったのである。

国葬参列者は政府の見込みを下回る

そんな状況の中で、国葬は行われた。参列者は国内外から4183人。政府が当初見込んでいた6000人を大きく下回った。これに警察官約2万人が動員された。

その一方で、全国各地で国葬反対行動が繰り広げられ、東京では約1万5000人（主催者発表）が国会正門前につめかけ、「国葬反対」を叫んだ。

筆者略歴（いわだれ ひろし）

1935年、長野県生まれ。朝日新聞社に入社し、東京本社社会部次長、編集委員などを歴任。1995年からフリーのジャーナリストとして活動。平和・協同ジャーナリスト基金代表運営委員。

いま、この国に必要なのは、 ブルネル・スピリット

―イザムバード・キングダム・ブルネルから学ぶこと

佐藤建吉（会員）

序

未来に向かって生きる

エリザベス2世が2022年9月8日に96歳で急逝した。同女王は、アレキサンドリナ・ヴィクトリア女王から5代目の王位であるが、2人の女王の前の王位とともにジョージ王と称した。女王は、国民とともに、特にエリザベス2世は70年の長きにわたり王室の威厳を守ったといえる。ヴィクトリア女王も、ポスト産業革命の時代に、世界をリードする王室としてその役割を全うし、百花繚乱の英国を築いた。

ヴィクトリア時代には、変革を主導して200年後の今日にもなお存在感を遺しているエンジンニア、ブルネル父子がいた。特に、息子のイザムバード・キングダム・ブルネルは、53年の短い生涯に多くの変革を成し遂げ、「人々が行きたいところに連れていってくれた」と評されている。

筆者は、「未来史」という言葉を、現在の時代に生きる人々が持つべき《視座》であると考え、その普及や定着に向け活動している。それは、「現在を生きる人々が未来に向かって取り組んだ所作を、その後、年月を経たのちに確認する歴史学」であり、「技術

史」や「産業史」など、「現在において過去を歴史学」とするのではなく、過去における未来としての現在に至る過程で取り組んだ所作を「現在において《その未来視観》を歴史学」とするのである。「過去においては未来であった現在」から、その当時における《未来視観》の歴史過程を省察し今後の未来に向かう現在に活かしていこうとする歴史学である。これを前述した傍線部分に追記すれば、「現在を生きる人々が、未来に確認されることを意識して、未来に対処する行動へ反映させようとする視座（未来視観）の歴史学」である。

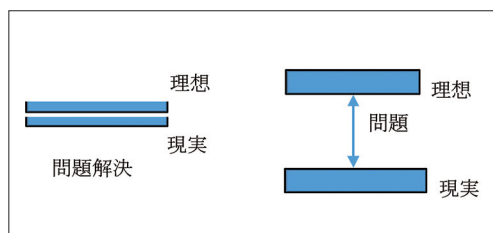


図1 問題は現実と理想のギャップ／
現実と理想が一致すれば問題解決

問題は現実と理想のギャップ

私たちは毎日暮らししている。その舞台は、家庭であり、学校であり、職場である。それは、社会と呼ばれる組織体のなかにある。社会は、地域社会と限定されたり、広く国際社会と見なされたりする。さらに世間と呼ばれ、ある制約が、その社会を特徴づけたりもする。

あるひとりの人物に着目すれば、個人として、家庭人として、そして組織や法人のメンバーとして身を置いている。国家や組織の代表という職務を担うと、国や法人等を守る立場の存在に

化身し、個人の立場が疎かになったりもする。個人としても、組織や法人としても、その持続可能性を願う。そして「現実」を分析し、「理想」を想

定し、理想の実現が目標とされる。

この局面で、しばしば「問題」や「課題」という言葉を発する。ここで、「問題」とは、図1のように、現実と理想の隔たり（ギャップ）の存在と表示することができる。目標とした理想の実現は、現実と理想の一致であり、それは「問題解決」であり、夢の実現である。すなわち、理想は「夢」でもある。

問題解決の具体的な行為として、「モノづくり」がある。すなわち、こういうモノがあればいいなとイメージし、実際にそれを作り上げることが「モノづくり」である。この行為を会意した文字が工学の「工」である。この場合は図2のように、《現実》にはまだなく、しかし欲しいとイメージした《理想》を実現することであり、理想と現実をつなぐことである。結果、両者は一致、ギャップは見かけ上なくなり、目標が実現したことになる。それは、天に位置付けイメージしたモノ《上の横棒》を、地にある素材《下の横棒》を用いて、技術や技《縦の棒》

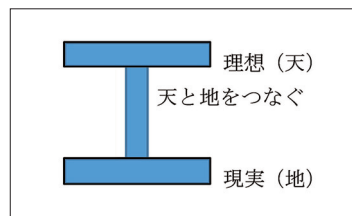


図2 地にある素材を活かして天にイメージしたモノを作り上げる＝モノづくり

である。《モノ》を《コト》に置き換えれば「コトづくり」となる。

図1と図2の関連で大切なことは、現実の認識と理想の想像である。現実には満足し、妥協していれば、理想は設定できない。つまり両者にギャップは生まれず、問題を発見できないし、モノを設計できない。とりわけ、《問題》と、言葉を発する時は、この《現実》と《理想》を具体的に認識し、両者に《ギャップ》があると感じてこそ、なのである。むやみに、《問題》と言っ

課題解決はチャレンジ

20年前には、ほとんどの分野で日本の科学技術力は世界3位以内を誇って

で、天と地をつなぐことで、すなわち、「モノづくり」である。工学の「工」

いた。しかし、いまや、中国やヨーロッパ勢の後塵を拝している。英科学誌『ネイチャー』が、主要科学誌の掲載論文数などをもとにまとめた2022年の科学力ランキングで、日本では東京大学がcaろうじて14位（1位は5年連続で中国科学院）。また、世界知的所有権機関（WIPO）が発表した各国の技術革新の能力を示す指数（2020年版）では、日本は世界第17位（1位はスイス、10位に韓国）、という現状である。

日本の産業界・科学技術界は、かつてのイノベーションへのあくなき追求心、燃えるようなチャレンジ・スピリットを失い、現状肯定の空気が漂っている。このままでは、2030年代には、日本は20世紀の科学技術大国として懐古される存在に堕してしまいそうである。その改善には、その事実や現状を《問題》として認識することが必要であり、その解決は《課題》となる。マネジメントの分野では、「課題解決」という言葉は、「チャレンジ」という言葉に置き換えられる。

破

チャレンジ精神あふれるヒーロー、ブルネル

英国で最も偉大なエンジニアと評価されているイザムバード・キングダム・ブルネル（Isambard Kingdom Brunel 1806～1859年）と、その父、マーク・イザムバード・ブルネル（Marc Isambard Brunel 1768～1848年）を紹介したい。彼らの事績を知ることが、課題解決へのヒントになるのでは、と筆者は考えている。鉄道や自動車道などのトンネル、また東京湾アクアラインなどの長大な海底トンネルを掘削するのにも、「シールド工法」が使われている。今日このシールド掘削技術は、日本が世界一を誇っているが、それはこれまでの日本の企業やエンジニアによる挑戦、それと、実践の軌跡の結果にほかならない。しかし、シールド工法の発明者が父マーク・ブルネル（以下、父・マーク）であることや、息子のイザムバード・

ブルネル（以下、子・イザムバード、または子・ブルネル）を知る日本人は、土木エンジニアを除いて少ない。鉄道ファンの一部は、鉄道に関連するデザイン賞として有名な「ブルネル賞」が、彼の名前に由来するを知っている。

2012年のロンドン・オリンピックの開会式では、子・ブルネルが、司会者（MC）の役割で登場した。このことは、子・ブルネルが英国で著名な人物であり、かつ英国発の産業革命と大きな関わりのあることを示している。これは、英国での偉大さを示している。

日本ではあまり知られていないブルネル父子ではあるが、英国の産業革命による社会の大変革期に活躍した2人の人生は、技術革新（イノベーション）を追求し、挑戦心にあふれたエンジニアそのものであった。本稿では、ブルネル父子を、挑戦するエンジニアと呼び、2人の功績を紹介する。それは、現在の日本が成すべき目標を定め、努力や行動をとること、目線を未来に据えることにほかならない。そのためには、課題を見つけ、解決する方向付けや道の

りを定めることが必要である。これは、「日本が元氣を出すためのマネジメント」のレッスンともいえるだろう。

前述した2012年に行われたロンドン・オリンピックの開会式の演出は、映画監督のダニー・ボイルによって構成された。その開会式のMCとして登場したのは、俳優のケネス・ブラナーが扮した子・ブルネルであった。それは、英国の起源から産業革命までのストーリーを、ブルネルが紹介するという演出であった。残念ながら、開会式を当日のTVで観た日本人で、その演出と背景などについて、また、子・ブルネルがMCとして登場する由来を認識していた人は少なかったと思われる。

加していただいた。

英語の通訳はマネジメントを専攻する大学講師に依頼した。彼女の通訳で、ブルネルが成す「課題解決」を、明確に「チャレンジ」と訳していた。こうして、ブルネル父子は、何よりもこの「課題解決」＝「チャレンジ」のスピリットあふれるエンジニアであったことが証明されたのである。筆者は、ブルネル父子の特徴である挑戦心、チャレンジ・スピリットを、「ブルネル・スピリット」と名づけ、広めている。

未来へ向かうブルネルの目線

ブルネル父子の目線は、いつも未来に、革新・改革に向いていた。子・ブルネルは、特許制度を否定していた。彼は、特許制度はせつかくの新しい技術の適用が一部の者に限られるので、社会を未来に牽引することが遅くなる、と考えた。実際、彼は多くの新技術の開発を行ったが、一件の特許も申請していない。特許化することなしに実用化した。さらにほかの人が開発した新技術の適用にも努めた。そうした彼の考えは、世界の技術の先端に自分がい、との自信の表れでもあった。彼は、技術を独占するつもりはなく、特許は無用で、むしろ障害であると考えていたのであった。

ブルネル、特に子・ブルネルの英国での人気は、多くの分野で途方もないチャレンジを成し遂げた点による。筆者は、著書『偉大なるブルネルの挑戦』で、子・ブルネルの挑戦を、未来への目線という切り口でまとめ、そのあとがきに、「彼の視線の中には、極東の日本も入っていた」と書いた【註1】。

いま筆者が危惧することは、21世紀の人類の課題解決において、日本は国際社会から置き去りにされてしまうのでは？ ということである。日本は従来型の技術開発や体制にこだわりの、未来への道のりに向かう技術開発には足踏み状態であるといわざるを得ない。とりわけ、再生可能エネルギー（自然エネルギー）を導入し、電力の100%を再生可能エネルギーでまかなう「RE100」という潮流については、日本の政府や財界は一枚岩ではない。

つまり、未来に向かって課題を選択し、的確に解決する姿勢、チャレンジする精神が欠落している。課題を解決し、未来に向かう、挑戦する姿勢に欠けているといえる。東日本大震災からもう11年が経過したが、東北はなお復興の途にある。それは東北地域だけでなく日本の、そして世界の人々に共通する願いである。未来に目線をおいた復興が望まれる。

ヴィクトリア時代を牽引した スティーヴンソンとブルネル

1837年から1901年までの英国は、アレクサンドリナ・ヴィクトリア女王の治世で、「ヴィクトリア時代」と呼ばれ、百花繚乱、光輝あふれる「グレイト・ブリテン」の時代であった。産業革命によって生産方式が変化し、世の中が大きく変化したポスト産業革命の時代でもあった。次にこの輝かしいヴィクトリア時代を牽引したエンジンニアの家系、スティーヴンソン家とブルネル家を紹介する。

□スティーヴンソン家(図3)

スティーヴンソン家の父、ジョージ・スティーヴンソン (George Stephenson 1781~1848年) は、英国の土木・機械のエンジンニアで、蒸気機関車のロコモーション号を開発、鉄道の黎明期を牽引した「鉄道の父」と呼ばれる人物である。

彼が採用した左右のレールの間隔(軌間、ゲージという) 1435mmは、「スティーヴンソン・ゲージ」とも呼ばれ、現在でも世界中の標準軌となっている。彼の息子であるロバート・スティーヴンソン (Robert Stephenson 1803~1859年) も土木エンジンニアであり、また非常に優れた蒸気鉄道のエンジンニアであった。

1825年9月27日に、スティーヴンソン父子により、ストックトン(ダーリントン)間35kmの石炭輸送鉄道が、世界で最初に開通した。そしてその5年後、1830年9月15日に、リバプール(マンチェスター)間51kmに旅客鉄道が開通。その蒸気機関車は、ロケット号と命名された。

スティーヴンソン父子は、時代のニ



図3 左) 父ジョージ・スティーヴンソン
右) 子ロバート・スティーヴンソン

ーズに応え、解決策を見出し、リーダーシップを発揮して優れた開発を成し遂げ、世界の鉄道のスタンダードを作り上げた点で、後述するスマイルズが成功者として取り上げるには相応しいエンジンニアであった。

□挑戦する父子—ブルネル家(図4)

ブルネル家の父、マーク・イズムバード・ブルネルはフランスのノルマンディー地方の旧家に生まれた。父は次男のマークに聖職者になることを望んだが、数学や図学を得意とし、父の望む道を選ば

なかったマークは勘当の身となった。

その後、フランス海軍の見習い士官として製図法などを学んでいるころ、フランス革命が勃発。王党派だった彼は難を逃れ、自由の国アメリカに渡る。そしてニューヨーク市の設計コンペに応募、優勝は逸したものの高い評価を受け、市の主任技師として迎えられた。こうしてニューヨークで成功したマークは、若いころ英国から彼の故郷にフランス語を学びに来ていて恋仲となっていたソフィアと結婚するため、英国南部のポーツマスに渡る。初めのうち、フランス国籍の彼がその地で暮らしていくことは、困難を伴ったが、やがて技術者としての力量が認められ、ソフィアと結婚することができた。

2人の間には2女1男が生まれ、その一人息子が、後に英国を代表するエンジニアとなるイザムバード・キングダム・ブルネルである。

マークは、息子イザムバードに幼少のころから英才教育を施し、フランスのリセでも学ばせた。その後、息子イザムバードはエコール・ポリテクニ-

ク（フランス公立高等教育研究機関）に入学を希望したが、仏英のハーフであることで入学を許可されず、フランスでのエリートコースを断念。英国の父の下でエンジニアリング実務の修業を始めることになった。

子・ブルネルの技術者としての転機となったのが、皮肉なことに、父が施工を担当したテムズ川トンネル工事の事故であった。彼は、現場の責任者・サイトエンジニアを担当していて落盤事故に遭い、ひん死の重傷を負ってし



図4 左) 父マーク・ブルネル
右) 子イザムバード・ブルネル

まうが、入院療養先のブリストルで、クリフトン吊橋の設計コンペのあることを知り、これに応募して優勝。工事は資金不足で遅れ、完成は彼の没後となったが、この橋は21世紀の現在も供用されており、ブリストルの最も人気ある観光名所となっている(図5)。

鉄道に、船に、橋梁に

―今日に残る偉大な業績

クリフトン吊橋の建設で名声を得た子・ブルネルは、ロンドン〜ブリスト



図5 クリフトン吊橋／ブリストル市

ルを結ぶ「グレイト・ウェスタン鉄道」(Great Western Railway, GWR)を提案し、採用され、建設監督を行った。彼は、その駅舎、軌道、トンネル、橋、そして蒸気機関車までも自身が設計し、万能ぶりを発揮した。

彼は1831年12月にステイヴンソンの鉄道に乗車した際、振動と揺れが大きいことを知り、これに改良を加えるため、軌道幅をステイヴンソンが設計した1435mmから2140mmに広げた。振動軽減による安定性・高速性・大量輸送という3つの技術革新を狙ったものであった。こうして、ロンドンからブリストルまで190kmの蒸気鉄道が、順次、広軌鉄道として開通。1838年5月31日、最初に開通したロンドン〜メイデンヘッド間の40kmの開通式は、ヴィクトリア女王を迎えて盛大に行われた。

子・ブルネルは蒸気船の分野でも手腕を発揮した。快速蒸気船グレイト・ウェスタン号 (ss Great Western) で実績を上げた後、プロペラ推力の蒸気船グレイト・ブリテン号 (ss Great

Britain) の建造に取り掛かった。建造に際し、彼はこれまでの木造船でなく鍊鉄船を採用。それに加え、これまでの外輪船方式でなくスクリュー・プロペラ船による推進方式を採用したまったく新しいタイプの蒸気船を建造した。さらに、当時植民地だったオーストラリアまでの航路で、ケープタウンで1回の石炭補給で済む巨大蒸気船 (ss Great Eastern) を建造した。

そのほか、子・ブルネルは大気圧鉄道 (Atmospheric Railway) も開発した。これは、蒸気機関を車両に搭載せず、駅舎に設置した真空ポンプを駆動して車両を運行するという画期的な技術である。線路上に敷設したチューブにピストンを嵌めておき、その前方を真空にすることによりピストンが吸引され、移動する、その移動力を車両の推進力にするものであった。この鉄道は、1847年に英国南西部のエクセター〜ニュートンアボット間の40kmで半年だけ商業運転された。当時は、チューブとピストンの咬合部からの空気漏れがあり、また信号システムなど

がなく、運転とさらなる開発は中止に追い込まれた。

しかし今日、この鉄道推進方式は、ブラジルの発明家・オスカーにより真空方式が圧縮方式に変更されて技術移転され、空気鉄道 Aeromovel としてブラジルで実用運転されている。

末期の仕事にロイヤル・アルバート鉄橋がある。1859年、英国南西部の軍港プリマス近くを流れるテイマー川に、独自の設計工法により、帆船の軍艦も橋下を通れる橋脚の高い橋を架橋した。この完成直後、数々の革新技術を開発した子・ブルネルは、53歳の生涯を閉じた。

急

明治政府はなぜブルネルを取り上げなかった？

2022年の今年は、1872年、新橋〜横浜間で日本で最初に鉄道が開通して150周年になる。英国に遅れてわずか47年後に、日本でも鉄道が走った。西洋文明の日本への移入が急速に

行われた。同時に、政治経済も西洋流の制度が導入された。

いまから150年以上も前の1866年、昌平坂学問所で学んだ中村正直(1832〜1891年)は留学生を連れて渡英し、サミュエル・スマイルズ(1812〜1904年)の著書『Self Help』を携え帰国した。中村はそれを漢文風に翻訳し、1871年に『西国立志編』として出版。同書は、文明開化の風潮の高まりの中、福沢諭吉の『学問のすすめ』とともにベストセラーとなった。同書には、当時の英国だけでなく世界で名を成した多くの人物とその背景が描かれている。が、スマイルズが取り上げた人物は決して富貴な生まれではなく、むしろ不遇な環境で育ち、もしくは一介の家庭の出身で大成した人物ばかりだった。

世界の偉人を例にとり、勤勉儉約・節制・誠実などの美德を実践し、無心に修養し、自助に努めることが成功の秘訣と繰り返し述べる『西国立志編』は、明治政府にとり、願ってもない職業倫理観のお手本となった。

前述のようにヴィクトリア時代の英国のエンジンニア・ファミリーのステイーヴンソン家とブルネル家は、二家とも鉄道や関連する土木分野に大きな貢献を成した偉大な一族であった。ブルネル家は、フランスでの家柄を捨て、米国で挑戦し、英国では常に現状を否定し、革新を求め変革を成し遂げた。同時に、失敗や挫折も繰り返し続けた。また、ステイーヴンソン家は保守派だったが、ブルネル家は万事に掛け値なしの革新派であった。

明治政府にとっては、日本の近代化のためには政府主導の施策に恭順・勤勉で、日常的に地道に取り組んでくれる人物こそが望ましい西洋人としての例であった。結果として、ステイーヴンソンは我が国の尋常小学校や高等小學校の国語の教科書にも掲載され教えられたが、挑戦者であり革新者であったブルネルは一切紹介されず、今日まで続いている。

学ぶべきブルネル・スピリット

今日の日本も世界も、ちょうどヴィクトリア時代と同じように、デジタル

革命によりICTやIoTの導入により、社会が大きく変化しようとしている。さらに、AIの時代が台頭するということとは、予想ではなくもはや誰もが確信している事実である。

このような社会変革が到来しつつある日本ではあるが、2020年代の現状は、ヴィクトリア時代を形容した「百花繚乱、光輝あふれる」という言葉は使いづらい。それは、誰もが行き先不明の列車の車内で蠢いているような雰囲気ゆえにほかならない。

大震災や新型コロナウイルス、気候異変、経済変動など、先行き不可解な事態が目まぐるしくやってくる今日の状況に対処するためには、想像力が豊かで独創的で課題解決型のブルネルの生き方にこそ、学ぶべき意義や価値が見出されるのではないだろうか？

20年前、2002年に、英国のBBCで「偉大な英国人」100人を決める投票が行われた。1位に選ばれたのは元首相のチャーチル、3位にダイアナ元妃、以下、ダーウィン、シェイクスピアなど有名人が名前を連ねている

アジア蔑視論と和魂漢才

— 日本文化の2つの潮流

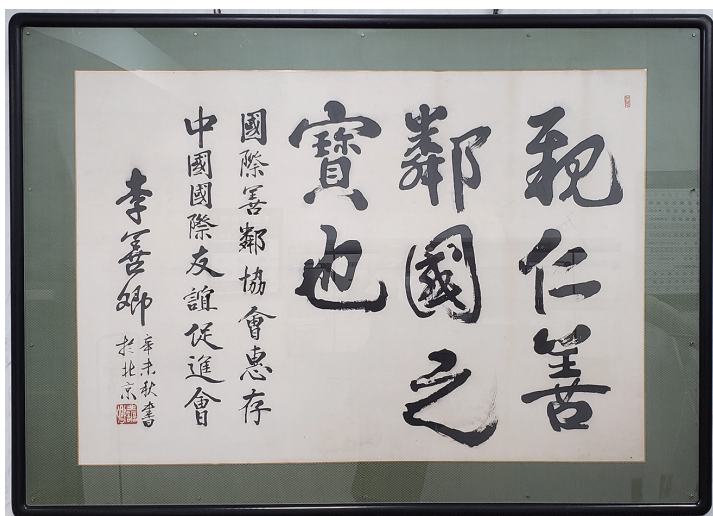
矢吹 晋（会員）

はじめに

「親仁善隣は国の宝也」の漢字8文字は、国際善隣協会会館1階ロビーの揮毫に明記されている。いうまでもなく典拠は『春秋左氏伝』だ。揮毫の由来については、筆者よりも適任の方に解説してもらうのがよい。私自身の体験をいえば、中国研究を志して以来60余年、いつも脳裏から「善隣」の2文字が消えることはなかった。嫌中・反中観の横行やこれを朝鮮半島に横滑りさせた嫌韓・反韓ムードの高まりに接して、『脱亜論』の過ちがいまだに克服できていないと感じて、歴史の教訓を顧みたい。

I. 朝河貫一の韓国併合批判

朝河貫一（1873～1948年）は、国際的評価に耐えうるほとんど唯一の歴史家である。彼はイェール大学で「大化改新——西暦645年の政治改革」を発表して、歴史学博士号を得て、母校ダートマス大学講師になった。折しも日露衝突は風雲急を告げ、彼は祖国の窮状を憂いつつ『イエール・レビュー』1904年5月号に「日露関係の諸問題」を寄稿した（矢吹晋編訳『ポーツマスから消された男』東信堂、2002年、83頁）。朝河の韓国認識は福沢諭吉に代表される



韓国蔑視論と天地ほどの違いがある。朝河は言う。

①日本にとって韓国の重みは、日本の活力の半分以上のものである。韓国が開国されるのか鎖国されるのか、強化されるのか弱体化するのか、独立できるか没落するのか、その帰趨によって日本の運命が決まる。

②対するロシアは、まず満洲、ひいては韓国まで手に入れることによって、東方を支配する海軍と通商基地を排他的政策に基づいて建設するであろう。加えて国家たらしとする日本の野心をくだき、飢餓と衰退に導き、日本の政治的併合さえ企むであろう。

③日本の観点から見ると、韓国・中国は内外の企業に対して等しく門戸を開放されるべきだ。その目的のためには、独立を堅持し、内部開発と自己改革によって、自らをより強化しなければならぬ。

④日本は韓国の独立を認めた最初の国である事実を忘れてはならない。そのためにもこそ、日清戦争という犠牲を払ったのだ。

⑤現在の日露戦争も同じ課題のために戦われている。というのは、韓国の独立は日本の死活に関わるからだ。

⑥それゆえ韓国が別の国【ロシア】の手に落ちないように、日本が韓国を併合すべきだという主張には断じて与することはできない。

⑦もし韓国がほんとうに自らの脚で立つことができないならば、その解決策は「併合ではない。韓国の資源を開発し、国家を再編成し強化することによって、真の独立を可能にすることなのだ」。

朝河貫一の透徹した東アジア国際情勢認識および日本の採るべき道についての彼の主張の核心は、この引用から読み取れるであろう。

さて、筆者がここで朝河の見解を紹介したのは、福沢諭吉（1835～1901年）のあまりにも有名な脱亜論という名のアジア蔑視論と対比するためである。このテーマと長年にわたって格闘してきた安川寿之輔（名古屋大学名誉教授）は、一連の労作のまとめとして仲間（雁屋哲、杉田聡）とともに『さようなら！ 福沢諭吉』という

キャンペーン本をまとめた。私は「脱亜入欧」イデオロギーの核心が即アジア蔑視論にはかならないことを確認することは急務と痛感している。いまや福沢1万円札は退場しつつあるが、形を変えた令和の脱亜論変種は「価値観が異なる」とか、「価値観を共有するG7との連帯といった文言でいよいよにぎやかだ。G7の表現は先進国連合を指す〈中立的な表現〉と誤解されているが、紛れもなく旧帝国主義連合の言い換えだ。少なくとも脱亜の踏み台とされた隣人たちは、その記憶を忘れていない。2012年の「尖閣国有化」以後、急坂を転げ落ちるように悪化した日中関係、そして争点は少し異なるが、本質的には重なる日韓関係の現実を眺めて、脱亜論の犯罪的役割を改めて再考したい。

小論は、第一に、安川の脱亜論批判を紹介し、第二に、津田左右吉（1873～1961年）の中国蔑視論『シナ思想と日本』岩波新書、1938年）に対する先達・小倉芳彦（学習

院大学元学長・中国史)らによる批判を紹介する。第三に、日本帝国主義の侵略イデオロギーを担った福沢や津田の軽薄・悪質な論評は、『源氏物語』をひもとくことによって、そのいかがわしさが浮き彫りにされることを示す。

II. 侵略合理化のためのアジア蔑視——「ヘイトスピーチの元祖」福沢諭吉

安川寿之輔曰く——初期啓蒙期の福沢は、「支那、日本等、亜細亜の諸国」は日本と同じ「半開の国」と認識しており(『文明論之概略』第11章)、例えば1876年には朝鮮・中国への丸ごとの蔑視観は持っていなかった。1881年『時事小言』で、「専ら武備を盛にして国権を皇張する強兵富国」路線と、「無遠慮に其地面を押領して、我手を以て新築する」アジア侵略路線を確立した福沢は、翌1882年『時事新報』の社説「朝鮮の交際を論ず」において、「〔朝鮮国〕未開ならば之を

誘ふて之を導く可し、彼の人民果して頑陋ならば(中略)武力を用ひても其進歩を助けん」と主張して「文明」に誘導するという名目で武力行使と侵略を合理化した。つまり、朝鮮や中国が野蛮で「頑陋」であることが、武力行使の容認・合理化につながるという帝国主義的な「文明の論理」である。その様相は、次に見るとおり、「壬午軍乱・甲申政変」前後の「朝鮮人(中略)極めて頑愚(中略)凶暴」「頑迷倨傲」「無氣力無定見」「朝鮮(中略)妖魔悪鬼の地獄国」「支那人の怯懦卑屈は実に法外無類」「チャイニーズ(中略)恰も乞食エタ」「良餌」「支那人(中略)奴隷となるも、錢さへ得れば敢て憚る所に非ず」「朝鮮国(中略)滅亡こそ(中略)其幸福は大」などという発言である。

「天は人の上に人を造らず」から福沢を人間平等論者と理解するのは(最大の福沢諭吉神話)であり、福沢は人間を平等にしたら、社会全体がうまく治まらないという哲学まで主張した確信犯的な差別主義者であった。以下に

彼の侵略合理化のためのアジア蔑視観を列挙するが、日本の民衆に対する差別意識も同様であった。福沢は、日本の民衆一般を「無氣無力の愚民」「無智の小民」「百姓車挽」「下等社会素町人土百姓の輩」などと蔑称しただけでなく、「所謂百姓町人の輩は、社会の為に衣食を給するのみ。獸類にすれば豚の如きもの」、「馬鹿と片輪に宗教、丁度よき取合せならん」、維新当初の「徴兵制・地租改正・学制」反対一揆に参加した農民は「馬鹿者・賊民・愚民」、自由民権の運動家は「無智無識の愚民・無分別者・神社の本体を知らずして祭祀に群集するに似たり」などと批判した。福沢は、そのアジア蔑視の退嬰的な「帝国意識」を近代日本人の「心性」になるまでに仕上げる役割を果たした。

いま、日本社会を汚染している「ヘイトスピーチ」は、安倍内閣の集団的自衛権の行使容認を筆頭とする政治的暴走とあわせて、日本が再び戦争国家に転落する瀬戸際にあることを示唆している(安川寿之輔ほか『さような

ら！福沢諭吉」39～42頁、花伝社、2016年）。

月脚達彦は、「脱亜論」をこう要約する。

①蒸気機関や電信などの「交通の利器」が発達した現在、西洋文明を受け入れることは、誰でも懼る「麻疹」のように、「東洋」ないし「亜細亜」の国においても避けようにも避けられない。日本は西洋文明を受け入れなければ西洋諸国からの「独立」を維持できないことを悟り、それを受け入れるために「旧政府」（徳川幕府）を廃滅させるなど古い慣習を破って、すでに「文明国」の方向に進みつつある。

②ところが近隣の「支那朝鮮」は「古風旧習」を捨てずに「儒教主義」を墨守して、西洋文明を受け入れようとしていないので、とても「独立」を維持できる見込みがない。もし明治維新を成し遂げた志士のような人物が両国に現れれば話は別だが、そうでなければ数年のうちに両国は「亡国」となって西洋の「文明国」に分割されるだろう。

③日本が「文明国」の方向に進みつつあるのに、「西洋文明人」が「支那朝鮮」を見て、日本もそれらと同じような国だと考えたなら、これは日本にとって迷惑である（月脚著ii～iii頁）。

脱亜論の骨子をこのように要約したあと、月脚は言う。「福沢が日本による朝鮮の植民地化を唱えたことは一度もない」。要約の後半部分からわかるように、当時の日本に中国・朝鮮を支援して「共に亜細亜を興す」ことを主張する人が多く、また福沢自身もそう考えていたのではないかと示唆されることだ（月脚著iii頁）。なるほど、福沢は慶應義塾に朝鮮初の日本留学生を受け入れ、朝鮮開化派と接触を始めた初期には「朝鮮改造論」の担い手を期待し支援していた。しかしながら、この脱亜論で明記しているのは、「日本は「支那・朝鮮」も「文明国」になるように援助して「共に亜細亜を興す」ことではなく、これらの「悪友」との付き合いを謝絶するべきである」という一文である。月脚は続ける。

「では「脱亜論」の発表を機に福沢

が朝鮮を「悪友」として「謝絶」してしまったのかと言え、そうではなかった。特に1894年から95年の日清戦争の時期には、朝鮮の「文明」化と「独立」に関する社説が『時事新報』に再び頻繁に掲載されることになる。ところがその一方で、「脱亜論」掲載の7か月後の1885年9月から92年6月まで、『時事新報』には朝鮮に関する社説がほとんど掲載されていない。これは、イギリスによる朝鮮の巨文島の占領によって福沢が容易に朝鮮問題について発言できないほど、東アジアの状況が緊迫したからである。

さらに、日清戦争終結後の1896年2月に、艇態義塾の朝鮮人留学生第1号だった人物が主尊する朝鮮の政治改革が失敗に帰し、朝鮮の王室ならびに政府がロシアの影響下に置かれると、『時事新報』は朝鮮問題から基本的な手を引く態度を取った。こうした福沢ないし『時事新報』の態度の変化を理解するためには、その当時の朝鮮ならびに朝鮮をめぐる状況を適切に踏まえる必要があり、この点に朝鮮近代史研

究者が福沢の「東洋」政略論を扱うメモットがある」。

「さて、社説「脱亜論」を右に概観したような福沢の生涯の発言（と沈黙）の中に位置づければ、1880年以後、それまで西洋「文明」一辺倒だった福沢が、朝鮮人との接触を機に、西洋中心の近代国際秩序のもとで新たな日本とアジアとの関係を模索する過程で表明された、一時的・状況的な発言であったと解釈できる。もっとも、「脱亜論」をはじめとする福沢の中国・朝鮮に関する論説には、今日では到底容認されないような侮蔑的な言辞が綴られているのは事実である。また朝鮮に対して武力を用いたり中国と戦争したりしてでも朝鮮を「文明」化させて「独立」させなければならぬという「朝鮮改造論」は、当時の福沢およびその支援を受ける朝鮮開化派からすると「連帯」論であったとしても、今日の観点からすると侵略論である。しかし、「朝鮮改造論」は成就されることなく、福沢の死の9年後には、日本政府は朝鮮を「独立」させる

のではなく「併合」することになる。福沢の「朝鮮改造論」は言わば「挫折」の繰り返しだったのである」（月脚著iv～v頁）。

月脚は安川の強烈な福沢批判に反発したものの、結局は日本が「独立」支持ではなく、「併合」に至った経緯を踏まえ〈福沢の挫折〉と結論した。朝河貫一がイェール・レビューに冒頭の見解を示したのは1904年であり、福沢の死の3年後、併合の5年前である。朝河の先見の明は明らかであろう。

III. 中国蔑視論の源流を剔抉した 小倉芳彦の津田左右吉批判

歴史家小倉芳彦は、1972年に田中角栄訪中が行われた4年後にこう書いた。『歴研』編集委員会からの注文に応じたもので、「与えられた題で論文を書くのは、はじめてのような気がする。書きたい内容、書ける筋書きがあつて、題はあとからつけるのが私のふつうのやり方だから、こんどは勝

手がちがった。「津田左右吉と中国」。魅惑的なテーマである。津田という底無しの深淵。中国という無限大の広野。その二つが交わる接点を求めるのが津田「と」中国という課題の目標だとすると、これは容易ならぬ主題である」。

小倉は冒頭で、このテーマについて1976年に執筆する心構えを上記のように述懐している。小倉が先行する論評として挙げたのは、以下のものだ。

①家永三郎の著書（『津田左右吉の思想史的研究』）、②石母田正論文「歴史家について」（『歴史と民族の発見』1949年）、③旗田巍「日本における東洋史学の伝統」（1962年）、④上田正昭「津田史学の本質と課題」（1957年）、そして⑤増淵竜夫「歴史意識と国際感覚——日本の近代史学史における中国と日本」（1963年）などだ。これら5名の論客中、小倉が最も共感しているのは、増淵竜夫の観点、「歴史のいわゆる内面的理解に

ついて」である。近代化された日本を規準にして中国を「停滞」社会と見る津田の立場が、「果して本当の意味で克復されたのか」と重ねて問いかけているのも、まさにこのことがあるからだ。

小倉は言う、「日本の脱亜近代主義史学が、あからさまに表現の上で、あるいは潜在的な意識下で、中国や朝鮮を蔑視して来た痕跡を探し出すことは、容易だ」。しかしながら、中国・朝鮮蔑視の痕跡を探し出す手法自身が「外側の規準」ならば、問題はまた振り出しにもどる。小倉は、こうして「私の現在の課題は、津田左右吉という人物に対して、私なりの「内面的理解」を試みることにならざるを得ない」と再考して、津田の内面に迫る。津田の脱亜近代主義の原点は何か。小倉は津田著「白鳥博士小伝」(『東洋学報』29巻3・4号)にたどり着く。津田と白鳥庫吉(1865〜1942年)との師弟・交友関係は、白鳥が学習院の少壮教授だった時代から始まり、白鳥の死に至るまで半世紀続いた。それゆえ

「津田と中国」の問題は、「白鳥と中国」の問題に重なる。白鳥はドイツ留学後、学習院から東京帝国大学に移って東洋史学科を主宰し、満鉄に満鮮歴史地理調査部を設けた。津田ははじめ白鳥の私的な助手として、次いで正式の研究員となって、35歳の津田はようやく研究者としての生活を保証された。

辛亥革命直後の1913年、白鳥は「支那の国体と中華民國の現状」(『東洋時報』179号)の中で「シナでは天の命を受けた天子が天の代理者として民を治めるから、天子が失徳その他の事情で天命を行うことができなくなると革命がおこる。儒教においては君主の世襲を欲しない。しかるに日本では、皇室はシナにおける天それ自身にあたる。天自身が民を治めているのだから、万世一系が国体となるのは当然だ」と書いた。同13年に津田は『神代史の新しい研究』で、日本の神代史の政治思想が皇室を万世一系とするのは、「かの天子と人民とを天地の如く相対立しているものとする支那思想と

は全く趣が違う」と力説した。小倉は言う。白鳥と津田は、「辛亥革命前後の中国の動きを眼前にしつつ、日本にとってはシナの革命思想は不適合で、万世一系こそが日本の国体であったし、またあらねばならぬという確信を抱いていた」「これはこの2人の中国の革命運動に対する理解の質を示すと同時に、2人のその後の東洋学・シナ学上の業績を生み出す核となった」。小倉は津田論文「シナの史というものの」(1946年に復刊された最初の『歴史学研究』122号掲載)こそが「津田史学の核心」だと結論する。

①シナ人には「事実としての民族」(あるいは「群衆としての生活」)はあったが、民族集団の意識はなく、従って国民を形成しなかった。

②民族・国民としての集団生活こそが歴史の主体だから、それを欠くシナでは、王朝の歴史や記録・編纂物はあるても、私たちの言う意味での歴史は書かれなかった。

③シナには歴史的発展がないから歴史観がなく、文化が停滞しているから

シナ人は自己本位の名利を求める他に
関心のもちようがなく、歴史叙述の必
要が起こらなかった。

④歴史が人によって作られることを
知らぬから、応報のみを重んじて過程
を重んじない。つまり生活の社会的・
歴史的意義が考えられていない。

小倉はこの津田流史観を「徹底した
「ないないづくし」と呼ぶ。その対極
点に「あるあるづくし」として想定さ
れているのが、ヨーロッパ近代であ
り、それを受容した近代日本だ。『論
語と孔子の思想』（1946年）の結
語で、津田は「思想の研究に必要なの
は、思想を学問研究の対象とする立
場」であり、こういう研究方法は、
「それぞれの思想についていろいろの
特殊の伝統と偏執とをもっている国
【中国】の学者にはむつかしいが、
わが国【日本】ではできることであ
る」と断言している。ここで小倉は、
津田の〈自信の強さ〉（独善と読む―
矢吹注）に啞然とし、この自信が生み
出した1920年代以降の津田の研究
は停滞せるシナを観測する姿勢から出

たものと認識する。そして小倉は、
「これは、津田ひとりだけの問題だっ
たのではない」と結論する。

然り、これは日本の対中侵略戦争に
協力したすべての日本人の問題であっ
た。小倉は、「残念ながら日本の歴史
家「における」中国は、①時の日本政
府「における」中国と同質であるか、
②時の国際的主流「における」中国の
処遇と波長を同じくするものにすぎな
かった」と結ぶ。

1945年の敗戦は、原爆による対
米敗戦であり、対中敗戦に非ず、とす
る論調が大手を振ってまかり通る。1
945年敗戦は、日本史も、日本人の
歴史観も、何一つ変えることはなか
った。日中不再戦は、あつという間に
〈台湾有事〉と置換された。かくて日
本はいま中国蔑視・朝鮮蔑視の大流行
である。白鳥庫吉の邪馬台国Ⅱ九州論
が、日韓併合前後の時期に提起され
たのは偶然ではない。〈鯨面文身の先祖〉
を畿内から追放するために発想された
のであり、まさに白鳥帝国主義史観の
核心にほかならない（矢吹著『天皇制

と日本史』補章、集広舎、2021
年）。

IV. 『源氏物語』から読む和魂漢 才

中西進の論考「隠喩と暗喩——源氏
物語における白氏文集、長恨歌（1）
（2）」（国際日本文化研究センター『日
本研究』第4巻197～224頁、第
5巻105～133頁）を読むと、漢
籍からの膨大な引用が原典と並べて解
説されている。これらの直接的引用あ
るいは間接的暗喩がなければ、『源氏
物語』は成り立たないとさえいつて過
言ではあるまい。『源氏物語』の骨格
として漢籍が縦横に駆使されている事
実を見失うことは許されまい。漢籍か
ら何を学んだのか。一つは白楽天〈長
恨歌〉の引用からわかるように玄宗帝
と楊貴妃の〈傾国と傾城〉物語だ。こ
れは男女関係の話だから、一般に〈色
好み〉のテーマと理解されている。し
かしながら、これは同時に〈帝王学・
皇后学〉のテキストでもある。帝王学

としての『源氏物語』の成立と流布を最もわかりやすく説いているのは、著者紫式部が自著の成立を語った『紫式部日記』である。

藤原道長は娘・中宮彰子の里帰り出産時に一条帝への土産として冊子本を作らせた。——中宮様が宮中にお戻りになる日が、少しずつ近づいてきます。けれども次から次へと若宮のご誕生に伴う儀式が続きますので、女房たちは慌ただしく、落ち着かない日々を送っていました。そんな中で、中宮様は、物語の本を新しくお作りになりたいという意向を持たれ、早速、物語の制作が始まりました。ぐるぐる巻く巻物（卷子本）ではなく、一枚一枚紙をめくってゆく冊子本です。宮中にお戻りになる時の、お土産の目玉になさりたいのでしょうか。このプロジェクトの資任者と言いますか、中心となっているのが、ほかならぬ私でした（島内景二『新訳紫式部日記』花鳥社、2022年、278頁）。

中宮様の肝煎りで始まった「源氏物語」冊子本の制作プロジェクトです

が、殿（道長様）のご協力なしには不可能です。殿は、産後の健康が優れない中宮様のお体を心配されていますが、これから冬の寒さも厳しくなってくるゆきます。「子どもを産んだばかりの母親は健康第一で、特に冷氣には気をつけねばなりませんぞ。それなのに、寒い朝から冷え込む晩まで、新しい物語の冊子作りですか。大概になさったほうがよろしいですよ」と、口ではおっしゃるのですが、惜しみなく援助してくださるのです。清書に必要な上質の薄い紙をたくさん、それに筆や墨なども、殿は中宮様のお部屋に持ってきてくださいます（島内279頁）。

『紫式部日記』の記述からわかるように、若宮出産後に里帰り先から宮中へ帰る際の一条帝への土産として持参させるためにこそ、『源氏物語』冊子本が作られた。当時は極めて高価な、大量の上質の薄い紙と筆や墨を道長が用意したことによって、冊子本は成ったことが、ここで証言されている。島内解説からわかるように、一条帝は中宮彰子の手元にある『源氏物語』を〈読み聞かせ〉させることによって、〈紫式部の漢才〉を的確に理解した。この事実は何を意味するか。『源氏物語』は一般に〈色好み〉の読物と理解するようになって久しいが、一条帝たちは、〈色好み〉と同時に長恨歌の〈傾城・傾国物語〉、すなわち帝王学の副読本として読んだのだ。この伝統は徳川綱吉の側用人柳沢吉保の側室正親町町子『松蔭日記』まで続いたと島内景二が論じている（NHK古典講座「紫式部日記（23）」2022年3月5日ほか）。

このように、私は少女時代から漢籍に深く親しんでいたのですが、少しずつ、漢籍や漢字に疎くなってゆきました。というのは、「漢学は男性のものです」が、その男性だって、漢学の素養をひけらかすようなタイプの人は、どういうものではないでしょうか。出世だって、ろくにできないようですよ。まして、女性ならばなおさら、漢学の素養を持つただけで、皆から敬遠されることが多いでしょう」と助言されることが多くなり、私も、その忠告を、身に染

みて受け止めたのです。その結果、「一」という字すら、自分は書いて見せないようになりました。仮面を永くかぶり続けていると、いつのまにか仮面が取れなくなるように、演技がいつのまにか本質となり、まことに、私が無学であることは、我ながらあきれるばかりです。少女時代に読んだことのある漢籍などは、もう自分には親しいものではなくなり、読むことはおろか、手に取って眺めることもなくなりました。それなのに、「漢籍に詳しい女性」という私の噂はますます大きくなる一方で、とうとう、「日本紀の御局」などという、とんでもない渾名をつけられたと聞きました。（中略）それなのに、中宮様の御前で、『白氏文集』のあちらこちらを私に読ませなさったことがあります。それによって中宮様の好奇心や向学心がいたく刺激された見え、漢詩文についてもっと詳しいことを知りたいと思われるようになっていました。それで、一昨年の夏くらいから、人目につかないように細心の注意を払い、中宮様の近くに誰も

人がいない時を見計らって、『新樂府』という漢詩を、お粗末ながら教えていますが、そのことも秘密にしているのです。この『新樂府』は、白楽天の『白氏文集』の巻三と巻四に当たっていますが、為政者の参考になる内容を多く含んでいるのです。このことは、私だけでなく、中宮様も内緒にしておられました。殿（道長様）も、主上様（一条帝）も、二人の秘密をいつのまにかお知りになりました。私たちが読んでいます『新樂府』を初めとする漢籍を、殿は能書家に書かせて、中宮様に献上なさったのでした。このように、中宮様が私に漢籍を教えさせて読んでおられることを、私に「日本紀の御局」という渾名を付けた「うるさ型」の左衛門の内侍は、まだ知らないのでしょうか。もし、彼女がこの話を聞きたければ、どんなに私を批判するか、わかったものではありません。『文集の御局』や「樂府の御局」では済まないでしょう。中宮様まで巻き込んだのですから。この世の中は、何から何まで、複雑な出来事がほどこよう

もなくこんがらがっていて、すっきりしません。特に人間関係の網の目は、厄介なものですね（島内480、482頁）。

島内の名訳が教える一連の〈史実〉から、①日本文学の成立期における中国古典の役割とその意義を明確に再認識すべきこと、②総じて日本文化総体が中国文化の決定的影響を受けつつ、〈和魂漢才〉の精神によって育まれてきた史実に改めて眼を向けたい。それはアジア蔑視論の対極であろう。

筆者がいま自明の史実に改めて眼を向けよと指摘するのは、新・暴支膺懲国会決議（2022年2月1日）を皮切りに、新・脱亜論Ⅱアジア蔑視論の風潮がますます賑やかになりつつあるからだ。〈新・暴支膺懲決議〉や〈新・脱亜論〉の復興（Ⅱアジア蔑視論）によって日本の未来を切り開くことはできない。これらの旧日本帝国主義の負債を止揚することによってのみ、アジアの隣人との共生が可能となる。

陶々俳壇

会句陶
結果
2022年1月

兼題 「雑煮」「女」

馬場由紀子選

髪も手も老女冬日のスニーカー 日野正子

◎二三四 髪も手も年相応の外観になつた様子は、若々しい美しさとは無縁かもしれない。しかし、彼女はスニーカーを履いて冬の日だまりの中を確かな足取りで歩いている。遠観した美しさは、彼女だけのものなのです。

◎由紀子 この世に生を受けた瞬間から老いていくのだが、それは同時に成長でもある。いくつになっても成長し続ける作者の今は「スニーカー」に表れているのではないだろうか。

雑煮餅丸が慣いの三箇日

◎善一 この雑煮餅を作っているのは関西の方らしい。関東は角餅が多い。

賀状来ぬ君を気遣ひ初電話

大内善一

◎正堂 最近はお年増とともに賀状の届いたものに必ず賀状を出していますが、いつも届く人から来ないとかあったのかと心配で思わず電話をかけるもので、健在とわかるとほっとする。

◎正子 良い方だなあ。

◎綺李子

賀状書く葉書みつめて初硯

◎紅朽 年を重ねると会う機会が減ってきますが、年一回のやり取りがあれば、普段会ってなくともつながっている感じがします。PCで楽に文字を書ける時代に墨で賀状を書くとは奥ゆかしいことです。

灯を入れて佛間へ通す初明り 伊藤正堂

◎正子 生と死が静かに連綿と続く時の流れを感じます。

●由紀子 せっかくの初明りなのに「灯」を入れてしまったら台なし。「雨戸繰り」のように初明りが佛間に入りやすくなる措辞にするほうが良いのでは。

初霞峯はつきりと遠筑波

◎正子

◎明良 つばの落ち着いた新年が見えてきます。

◎紅朽

◎綺李子

初日の出までの雑魚寝や山の家 松島二三四

◎善一

登山客相手の山小屋。とにかく初日を山から登るのを見守るために沢山の客がやってくる。

◎由紀子 まだ日は出ていない天も地も人も混沌とした状態ですね。

日替りに柚子の札あり湯屋の軒

◎善一

家の小さい湯船より、たまには大きな銭湯がいい。たまたまその銭湯に柚子湯の札が下がって貸し手拭いを借り、ゆっくり入湯してきたのであろう。羨ましい。

聖歌隊の歌声遠くシュートレン齧る 立原綺李子

◎紅朽

●由紀子 「齧る」は省く。

倚りかかるのは椅子の背もたれだけ、という女詩人あり

●由紀子

詩情は？「歳晩や女詩人は背もたれに」

ひっそりと雑煮喰いたる夫婦かな 橋本紅朽

◎明良

コロナ禍に加えて往来がめっきり減りまし

た。表現が見事です。

◎正堂

関西風妻の作りし味噌雑煮

●由紀子 一度全国の雑煮を食べ比べたいものです。

薄墨の一葉届く雪催 馬場由紀子

◎善一

すでに年賀状の季節が終わったが親しい友より、寒中見舞の便りが、薄墨で書かれたものが届いた。外はどんよりとした雪催ひであった。

◎二三四

薄墨で認めてあるのはよくない報せでしょう。折から雪が舞い始めた。体の深いところにも雪が積もるようです。「薄墨」が効いています。

山茶花や杖にやさしき女坂

◎綺李子

山茶花は椿に似ている。首から落ちる椿に比べると、花びらが一枚ずつ散ってゆく（やさしさ！）のは魅力。が、チャドクガには要注意です。

蜜柑山拈華微笑に夫婦老ゆ

◎明良

のどかな中で余生を過ごすさまが豊かに見えます。

「句会の小窓」

小春日や繕ふだけの障子貼り

今回の句会が出された佳句です。日常の一コマが穏やかに表現されています。ただ、「小春日」は初冬の季語で、「障子貼る」は仲秋。

現代の生活では何故か思いますが、かつては夏に華戸を立て、うそ寒の障子や襖に替えていました。季語はその名残でしょうが、空調の効いた生活では「障子貼る」を季語とするのは嘘っぽく感じます。

このように現代の生活において肩身の狭い季語となってしまう「障子貼る」ですが、持続可能な社会では復活するかもしれません。

陶々俳壇

会 句 陶 陶
結 果
2022年2月

兼題 「鶯餅」「雨」

馬場由紀子選

禅堂に警策ひびく寒修行

伊藤正堂

○善一

冬の最も寒い寒の入りから寒明けまでの間、修行僧たちは壁に向かって正座し修行を続けている。時折、禅師が巡回し、右肩に警策を当てにシリと打つ、その音が室内に響き渡る。私もかつて京の寺で経験したことがある。

○綺李子

○紅杓

鶯の食べるに惜しき餅の色

〃

○紅杓

春先にさえずる鶯は別名「春告鳥」(はるつげどり)とも呼ばれる。鶯餅は鶯の声が待たれる2月のお茶会で重宝される和菓子で小豆(あずき)をつかった餠を求肥(きゅうひ)で包み、表面に香り高い青き粉をふって仕上っている。本物の鶯の色は普通のきなこの色に近い、茶味のかかった「鶯茶」と呼ばれるお茶の色に近い茶味の強い羽を持つている。イラストなどに描かれた鶯の羽は緑っぽいものが多いが実は「メジロ」と混同されることが多かったためらしい。しかし「春らしいお菓子」と考えると彩りが鮮やかな緑の方なので「うぐいす粉」と呼ばれる「青大豆」を使った緑のきなこか抹茶を混ぜたきなこに変わった。

○綺李子

ひれ酒や思いのほかに深き酔い

橋本紅杓

○由紀子

「思いのほか」が効いている。単に飲みすぎたからではない、心にかかる何かが酔いを深めたのだろう。

○三三四

熱いひれ酒はつい進んでしまいますが、熱さのせいか酔いが回るのも速い気がします。気が付くとけっこう酔っていたー。ご同輩、用心召され。

受ける手にうぐいす餅の緑の粉

〃

○正堂

鶯餅をのせると粉がつくが払うのが惜しい。不調法物の私も餅の粉を膝に落として慌てます。

○明良

九十歳なる目刺二尾を奢りとす

大内善一

○綺李子

コロナ禍・オミクロン禍で忘年会・新年会・句会も、ままならないこのご時世に、お元気で目刺二尾を食されるお姿に頭が下がります。陶陶句会の末席をよしてしている自分を戒めるために、この特選句を机上に掲げておきたいと思います。

○正堂

独居の年寄は茶漬に目刺で済ませたくなる。強く潔い気持ちを感じられます。歳を経ないでできない句です。土光さんのようですね。

○明良

うぐいすや目覚めの早き山の宿

〃

○正子

○綺李子

これから登山シーズンとなる。鶯の声が逸る登山者の心をくすぐる。

○由紀子

飛べぬとも鶯餅と縁の先

松島二三四

○明良

鶯と餅とつながる縁が凡人には思いもつかぬ句です。

○正子

温もりとユーモアが感じられます。

○正堂

○由紀子

縁先で鶯餅を食べながら鶯の啼き声が待たれる。

「飛べぬ」とは鶯餅に掛けただけではない。作者自身が大きく踏み出す勇氣を持たぬことを暗示したものとする。しかし、作者はそのような自身を受け入れ良しとしているのだろう。

○正子

如雨露からこぼれる光春立てり

〃

○明良

春の日差しと霧のような水滴が詩になって妙、恥ずかしながら如雨露が漢字だったとは今知りました。

寒風に雨は豹変雪となり

瀬崎明良

○紅杓

○正堂

食卓は鳥に先んじ鶯餅

〃

○正堂

余寒の頃の雨に風が吹くと雪に変わる。鶯はまだ啼かないのに食卓の鶯餅を食べている。

うすにごり雨しめやかに小正月

日野正子

○明良

うすにごりとしめやかな取り合わせが小正月の雰囲気良。

仲直り鶯餅を二つ買い

〃

○明良

鶯色の餅で一挙に幸せを引き寄せるのは巧みですね。

草青む紙飛行機はずつと宙

馬場由紀子

○三三四

冬を耐えた草原に新しい緑が芽吹き始める頃、光は柔らぐ。青さを増した空に向けて紙飛行機を飛ばす。若々しい緑の上に広がる青空を、三角の白い紙飛行機がすーっと切っていく。色のコントラストも鮮明、この空はやはり春でなければ。紙飛行機が飛び続けるわけではないのですが、どこまでも飛んでいくと思わせませす。紙飛行機が作者自身だからでしょう。

御仏の箔の剥がれやおぼろ月

〃

○正子

○善一

おぼろ月との取り合わせに惹かれました。金、銀、銅などの箔をつくり、それを仏像に貼りつける。長い年月に劣化して剥がれてしまったところに、おぼろ月が差しているという、よくとれたものだ。

○正堂

古刹の御仏は箔がとれて尊顔が強く感じられる。堂外はおぼろ月だ。

○綺李子

中国

ウオッチング

編・訳 上松玲子

性犯罪から子どもを守るには

最高人民検察院の統計資料によれば、2021年の未成年が被害者となった犯罪について、全国の検察機関の公訴件数は6万553件で、昨年比5・69%増加、うち2万7851人が性犯罪であった。最高人民検察院は特に重大な30の事案を典型的案件と指定し、関係機関と合同で「未成年に対する性犯罪刑事事件取扱い規定」を発布した。法的な責任追及は抑止力となるが、さらなる性犯罪防止のためには、学校や家庭、社会での教

育と保護が不可欠だ。

公益団体「女童保護」の調査によれば、報道された未成年に対する性犯罪223件の約47%105件については一人の被疑者に対して被害者が多数または1人の児童が何度も被害にあうというケースだったという。1人の性犯罪者が多くの児童に被害を及ぼす案件が26%の58件にも上るとい

う事実は、周囲が止めなければ多くの被害を生み続けることを示している。中には2年3年にわたり犯罪を繰り返していた例もあり、こうした傾向は顔見知りによる犯行に多い。

学校や保護者は被害をすぐに学校や親に伝えるよう子どもたちに教えるべきだし、社会に潜む危険や対処法を教えるべきだ。だが、科学的な教育方法も確立されていない。また、事件を地域の醜聞として扱う風潮があり、プライバシーの問題からも実例検証教育が難しい。実際、学校や親

が名誉のために事件を内部で処理をしたため、被害児童がこれは恥ずかしいことなのだと誰にも相談できず長期にわたり心身の葛藤に苦しむということが起きている。

〔光明ネット〕2022年7月4日

就職に性格の壁

就活で5つの関門を越え、6人の將軍を倒し勝利目前で「性格」で敗北する。つまり筆記試験も面接も通ったのに、性格テストで適性がないとされ不採用になったという嘆きが多く聞かれるようになった。取材で多くの企業がこの性格テストを取り入れ一部では重要な採用基準と位置付けていることがわかった。性格テストで不採用になるのも特別なことではない。

企業の採用担当者は多数の求職者を迅速に篩い分ける方法として、また性格や行動様式を見て、自社の企業文化や価値観に合った人を採用するために性格テストを実施してい

るのだ。買い手市場の中、採用担当者の苦労には一定の理解を示すが、一部では奇抜で科学的とはいえない手段さえ採用現場に持ち込まれている。

企業と求職者は互いに選択し合う関係であるべきだ。性格テストによって企業の価値観が伝わるとそれは就職希望者に対する暗示と押しつけになる。例えば、残業が多く強度の高い仕事の場合は性格テストでストレスに強い人が採用されやすくなり、心配性はマイナス点になる。どうしても採用されたければ迎合する人も出てくるだろう。それが高ければ公平なつなぎの場ではなく、一方的な篩い分けになる。

性格は目に見えない。数値的評価や分類による優劣の判断などはその科学性や公平性についてまだまだ議論の余地がある。そのような段階でテストを妄信するのは労働者の権利を害することになる。関係部門は看過するべきではない。

〔工人日報〕2022年7月20日
安易に飼わないで

近年、アルパカ、フクロモモンガ、アライグマ、テン、ワニガメ、トカゲ、サメといった他人とは違う珍しいペットが市場の一角を形成するようになった。多くの飼い主がSNSで自慢する一方で、後悔の声を上げる者もいる。

王震さんは一年前にヘラクレスオオカブトムシを飼っていた。環境づくりや土の配合など面倒だったが羽化して半年で死んでしまった。

実際希少ペットは手がかかる。ヤモリは種類によって適性温度が異なる。ハリネズミは刺激に弱く夜行性だ。マタマタは生きているものしか食べないし、水温は摂氏25度以上に保たねばならない。

ペットに病気は付き物だが専門の獣医師は少なく、都市部にしかない。その一人で6年間の経験をもつ獣医師の閻さんは、希少ペットの飼い

主とペットとの絆は薄い場合が多いと感じている。治療に多額の費用がかかるなら手放すほうがいいという態度だ。さらに、ペットの感染症は隠れた災いだ。多くの飼い主が淘宝や閑魚などインターネットモールや個人売買サイトか、知り合いを通じて希少ペットを購入している。検疫など程遠い。

〔解放日報〕2022年7月18日

農作物は待てない

8月2日、河南省商丘市寧陵県のある農民がコロナ感染症対策としての外出禁止期間にもかかわらず農地に出て農薬散布をした。その結果、罰として村内放送で全村民に向かって10回自己反省をするよう命じられた。「農薬撒きに行ったら捕まった。皆俺の二の舞は踏むなよ。家でじっとしている」。

農村のように皆が顔見知りの社会ではこれは決して軽い罰とは言えない。しかもその農民は年長者であったのでなおさ

らだ。実は7月31日から8月6日まで県では63件のコロナウィルス感染者が報告され、感染源も不明であった。そこで危機感をもった県政府は8月1日から緊急措置として寧陵県全域、全村、全世帯に医療関係者以外は外出を禁止する措置を打ち出したのだが、村民たちは100%政策を受け入れる様子ではなかった。そこで村の感染症対策責任者は多少乱暴だが、あえてこのような強い措置をとったのだ。

動機が間違っていないからといって、結果が伴うとは限らない。感染症対策と食糧の安定供給という二つの闘いがいづれも山場を迎えているときに、どちらか片方のみを考慮すればもう片方は失敗する。人間はひととき静かに不便に耐えることはできる。だが、畑の作物には無理だ。農業には周期やリズムがあり、一つ狂うだけで一年の収穫がふいになる。そして、立秋の

この時期はトウモロコシ、イネ、野菜などの農作物の病虫害が多発する時期で、秋の収穫に直結する大事な時期だ。

寧陵は豫東平原にあり、全国有数の食糧基地であり、食用油原料の主要生産地である。落花生、トウモロコシ、野菜などを主に生産している。外出禁止政策の実施にあたり、農民の事情や要望に配慮したのか、農業生産活動との調整は行われたのか、それを農民に的確に伝えたのか。そうしていればその農民が罰を受けるリスクを冒す必要はなかっただろう。

当局は今回のやり方は短絡的で乱暴だったと認めたが、感染が収束しない中、農民が今やらなければならない農作業をどうするのかという根本的問題は解決したのだろうか。他の村でも同様の問題はないのか。もちろんこれは寧陵県だけの問題ではない。

〔農民日報〕2022年8月8日

是彼會員

滿洲国立建国大学と戦後、日中 国交正常化と善隣国際交流事業

村田嘉明
(會員)

2022年9月は日中国交
正常化50年です。日本の新聞・
テレビ局は毎年、8月15日前
後に「終戦特集」に記事、放
送番組を組みます。1945
年8月は日中戦争の終戦で今
年は77年目を迎えました。私は
1945年1月に満洲国新京
特別市（現在の中国吉林省長
春市）で出生し、今年年齢77

歳です。中国東北部が私の第
二の故郷です。

8月20日、大阪ABCテレ
ビ「テレメンタリー2022」
を見ました。この番組は、2年
前には大阪朝日放送報道局記
者の丘文奈さんが国際善隣協
会会員の故・村田治雄さん
（建大6期）取材をし放送さ
れました。番組の映像では19
72年9月の日中国交正常化
で田中角栄と周恩来が人民大
会堂で硬く握手した場面が印
象的でした。今回の放送では今
泉茂さん（建大6期）と中国
人建大生の在学中から終戦、
引揚後、日中国交正常化後の
交流を「朋友・友好の橋を架
けた青年たち」のタイトルで放
送されました。日中国交正常

化から8年後、1980年に
日本側建大訪中団が北京空港
で出迎えた中国人建大生側の
赤い横断幕「歓喜嶺会、熱烈
歓迎」が印象的でした。小林
金三さん（3期）が訪中し、
中国人の陳抗さんと再会、当
時、中国外交部にいた陳抗さ
んが1972年の日中国交正
常化後、札幌の中国領事館開
設に尽力した状況も写りました。
番組では建大での学生生活
「五族協和」の下に日・中・鮮・
蒙・露の学生の交流が当時の
寮生活・農作業が映像になっ
ています。番組では愛知県豊橋
市の愛知大学豊橋キャンパス内
にある「建大生の記念碑」に
善隣会員、2期生の故・市川
衛門さん（2015年に逝去）
の名も刻まれていました。私が
善隣に入会した十数年前は建
大生OBがたくさんおり協会内
で交流しましたが、今、善隣に
いる会員は数名です。風前の灯
火です。1972年9月、田
中角栄首相、大平正芳外相、
二階堂進官房長官が訪中した
50年前は、日本国内は「日中
友好」ムードが最高潮でしたが
現在、日中関係は最悪の状態
です。政府間外交は厳しい局
面ですが民間の善隣国際交流・
日中友好の活動を続けたいと思
います。

国際善隣協会は一般社団法人
人として公益性のある公開講演
会・公開フォーラムを開催して
きましたが、2020年以降は
新型コロナウイルス感染環境下で対面



寧夏団善隣交流会 JST 修了式 (2019年11月)



寧夏団筑波大学医学部系
(2019年11月)

式の講演会の実施ができない状態です。ウィズコロナ下で対面式講演会の実施を望むところで、協会「定款」4条第2項に「善隣諸国の政治、経済、社会、文化及び歴史に関する講演会・シンポジウム・研究会の開催」と記述があり、協会は第3条の目的（中国及びその他の善隣諸国との相互理解を深め、親善関係の増進（中略）会員相互の研鑽、親睦を図る）を達成するため第4条の事業を行うと規定されています。第4条第4項では「善隣諸国における環境問題等への取り組みを支援する事業」が規定されています。私が10年以上所属する協会・常任委員会「国際交流委員会」では過去に中国内「寧夏回族自治区」「遼寧省葫蘆島」「黒竜江省富裕県」「北京市内」「西安市内」などの植林事業を実施し、現地にも行きました。今般、すでに実施済みの山西省太原市盆口郷提子頭村の2回目の植林申請を

外務省宛（日中友好会館経由）に提出しました。国際善隣協会の環境事業「植林」は協会定款に規定された主要事業と認識しています。世界的な地球温暖化で、空気中の二酸化炭素を減らすため「植林」の結果たす役割は大きいです。日中両国の善隣友好関係を持続し、民間草の根国際交流が望まれるところです。

◆文中1980年建大訪中団の記述で「歓喜嶺会、熱烈歓迎」歓喜嶺は建大のあった場所。文中、村田治雄さん（建大6期）は97歳で2022年8月に逝去。旧大同大街の坂を上りつめた場所「歓喜嶺」



湖北中医団北里大学（2020年1月）

と故・長野宏太郎氏（建大7期・国際善隣学院長）の記述があります。

◆筆者は2014年5月、府中市美術館で開催の「官展にみる近代美術展」劉榮楓作135「望郷」を鑑賞。同時出展の136「満洲の收穫」は星野画廊蔵。「望郷」は国際善隣協会5階会議室に展示されています。

善隣会員の皆様に5階会議室の大型絵画（一〇〇号）「望郷」について説明します。

劉榮楓、1892年生まれ。日本に帰化し陸軍大学校、陸軍経理学校教授を務めた劉雨田の息子。独学で洋画を学び、文展や東京大正博覧会に出品した。第11回文展（1917年）の出品作は皇室の買い上げになった。大正初年は日本と旧関東州を行き来していたようだが遅くとも1937年頃には長春（旧新京）に定住していた。満洲国展には第1回、4回まで出品していたこ

とが確認できる。第2回展では美術委員を務め、無鑑査出品だった。大連や日本国内でしばしば個展を開催した。

〈参考文献〉

①五族協和の魁『満洲国立満洲建国大学』源元一郎著、2021年4月刊、鳥影社（建大の満洲の大地での農作業と劉榮楓作「望郷」が重なり、作者の母国、中国東北部の望郷の念が感ぜられる）。

②『官展にみる近代美術 東京・ソウル・台北・長春』（図録）。2014年5月、府中市美術館で開催され劉榮楓作「望郷」が展覧された。



劉榮楓作（100号）「望郷」

*絵画の作者プロフィールは『官展にみる近代美術』268頁から引用した。（2014年当時、善隣協会事務局との交渉にあたった志賀学芸員）



◆令和4年度第6回理事会の議題（9月15開催）

今月は下記内容で審議を行った。

・確認事項

7月21日に開催された第5回理事会の議事録（案）が確認された。

・報告事項

①資金繰りについて（定例報告）
②常任委員会報告（定例報告）

今回は広報委員会より会員に対するアンケートの原案が提示され、内容、方法等について次回理事会以降、審議することとした。

◆事務局報告

コロナ禍によるオフィス需要の低下を受け、当協会ビルの3階B、C室（23坪）も空室状態が続いており、引き続きテナントの募集に努めている。会員の知人友人等に希望者がありましたら、事務局まで連絡いただき

たい。

（事務局長 竹前栄男）

会員だより

◎計報

村田治雄氏（97歳）
令和4年8月20日逝去
神保 達氏（97歳）
令和4年8月28日逝去
謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

〈二石会（囲碁）〉

会員募集中です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈俳句会〉

馬場由紀子先生のご指導で、対面と通信と並行して開催いたします。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

〈謡曲会〉

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

利尻島姫沼（表紙）

北海道利尻富士町、原生林帯に囲まれた神秘的な人造沼、姫沼です。標高130mに位置し、周囲約800m、深さ約2mの湖で、爆裂火口の跡と推測されています。姫沼という名前は、大正4年に姫鱒を放流したことに由来。沼の向こうには、利尻富士の雪山雄姿が眺められます。

早朝の散策ツアーで、親切なイケメンガイドさんが、利尻の湧き水を使ったコーヒータンや少し甘みがある白樺の樹汁を、ごちそうしてくれました。その時の、湖畔の森が朝日に照らされ、美しく金色に染まった姫沼の絶景は忘れられません。（姜晋如）

中国昆布養殖場訪問（表4）

1989年7月外国人の立ち入り禁止地区にある、「昆

布養殖場」に特別許可を得て訪問しました。

山東省蓬萊港から県外貿易の運搬船に便乗。国共内戦時に使用した上陸用舟艇で、約4時間の旅、期待した大欽島南村に着きました。渤海湾の出入り口に位置する、長島群島は蓬萊と旅順を結ぶ飛び石のような北端にあるですが、大欽島は首都北京を防衛する、ミサイル基地がある軍事要地です。近海は水深が深く透明で玉石が堆積していて、土砂が少なく昆布養殖に適していました。昆布産地の中でも長島産は品質が高く、評価されていました。中国昆布の輸入が解禁されたのは、国交正常化された1972年12月ですが、軍事要地のため北京軍区の管理下で、許可が出るのは申請して十数年経っての実現でした。（新宅久夫）

2022年11月の行事予定

8日（火） 14：00 謡曲会（松木先生お稽古）

9日（水） 13：00 俳句会
兼題「口切、泡」及び当季雑詠から5句を投句（10月末までに）

10日（木） 14：00 公開 第13回オンライン講演会（Zoomと対面のハイブリッド方式で実施）
「平和を創る道の探求—ウクライナ危機の『糾弾』『制裁』を超えて—」
孫崎亨氏（元外務省国際情報局長・イラン大使、東アジア共同体研究所所長）

17日（木） 15：00 自衛消防訓練（会員・テナント参加）

22日（火） 14：00 公開 第14回オンライン講演会（Zoomと対面のハイブリッド方式で実施）
「外国人在留の就労資格と現状」
三家本啓一氏（行政書士みかもと事務所）

25日（金） 14：00 公開【善隣中国塾】（Zoomと対面のハイブリッド方式で実施）
塾長：矢吹晋氏（横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問）

11月の会議予定

1日（火） 13：00	国際交流委員会	17日（木） 13：00	理事会（第8回）
8日（火） 13：00	環境委員会	17日（木） 15：30	広報委員会
15日（火） 13：30	講演委員会（Zoom）	<u>30日（水） 14：00</u>	東北委員会

※下線は通常日程に変更あり。

みんなの 写真館

山東省長島県大欽島村・昆布養殖場



生昆布



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<https://www.kokusaizenrin.com>